

## 1. 小学校児童対象アンケート結果について

### (1) 学校や先生のことについて

5, 10の質問で「ウ あまりそう思わない」と答えた児童がいるため、次の改善点が考えられる。

- ・算数や理科では自分で考える場面を設定でき、国語でも話し合い活動を充実したことにより改善しつつある。今後も引き続き意思決定の場を増やし、自立解決の力を養っていく。
- ・あらゆる学校生活で児童がスムーズに問題解決ができるよう、教師の声かけ（ほめる・励ます・説明・注意）やその場に応じた個別の支援を講じる。
- ・連絡帳や日記でのやりとりを密にしていく。教師が変化に気づいた時点で、こちらから関わっていき、早い段階での児童が抱える悩みに気づけるようにする。担任以外にも質問・相談できる環境づくりを推進する。また、成長過程で心身に不安を抱える場合もあるので、養護教諭も積極的に関わっていく。

### (2) 自分の生活について

2, 4, 11の質問で「ウ あまりそう思わない」と答えた児童がいるため、次の改善点が考えられる。

- ・1対1だと発表スタイルが確立しにくいいため、授業に他教員も入ってもらい、発表ができる機会を増やす。
- ・質問の意味が確実に捉えられるように、端的に話したり、確認したりする。
- ・進んであいさつができるようにするために、道徳等であいさつの大切さを伝える。また、教師自ら大きな声であいさつをするなど手本を見せたり、子ども主体のあいさつ運動を実施する。
- ・行事等はなんのためにしているのか、目的意識を持って取り組めるように引き続き伝えてから活動に臨めるようにしていく。
- ・伊座利の海でとれる魚や海そうを知るために、磯学習や生活・総合で伊座利の漁業や海の生き物を扱う。
- ・新型コロナウイルス感染症予防対策をしながら、伊座利ならではの特色ある体験学習を計画的に実施していく。

## 2. 中学校生徒対象アンケート結果について

「A そう思う」が「B ややそう思う」より割合が低い項目について改善点を考えた。

- ・メモを取る習慣を身に付けさせる。後で確認ができるように、わかりやすいメモの取り方を指導していく。また、行事等詳しい説明が必要な場合は、持参物を書いたメモを渡す等の支援をしていく。
- ・意見発表の場面を多く作り、他者に自分の意見を伝える体験を増やす。意見の伝え方をデモンストレーションしてから、それぞれの場面に取り組みさせる。相手の意見や考えを聞き、自分の意見と照らし合わせ、考えを再構築させていく作業がこれから必要となってくる。
- ・「今、学習していることはよくわかる」は100%であった。これに加えて「毎日、家庭学習をしている」と答えた割合が増えてきている。学習内容が理解できているから、家庭学習が継続できるというサイクルが確立しつつあるように思う。これからの毎日の授業を大切に、意欲的に取り組める家庭学習の確保に取り組んでいきたい。
- ・将来の夢や希望の実現に向けて生活していくために、高校のことや職業についての情報を与える中で将来の進路への意識を高める。また、キャリア・パスポートを活用し、キャリア教育を充実させていく。授業時間内だけでなく生徒がリラックスした場面(休憩時間等)に雑談を交えながら将来の展望等の話を聞いていく。

## 3. 保護者対象アンケート結果について

「C あまりそう思わない」と回答した項目3, 4, 13についての改善点を考えた。

- ・送迎の都合があるため、1ヶ月の流れがもっと細かくわかるようなものを保護者に提示する等、月予定の変更や下校時刻が計画的に連絡できるようにする必要がある。
- ・学校行事や大会等で新型コロナウイルス感染症予防対策による実施の有無について、各主催者の対応を正確に保護者に伝えられようにする。
- ・家庭との連携を強めるために、学校での子どもの様子を保護者にこまめに伝えたり、積極的に地域(家庭)へ出向いたりする。また、オープンスクールなどを充実させる。
- ・校内ではあいさつができていても地域に出るとできない児童生徒が多いので、

行事で地域に出かけた時でも児童生徒から自然に声が出るように学校全体であいさつに取り組む。

#### 4. 教職員対象アンケート結果について

「A そう思う」が「B ややそう思う」より割合が低い項目について改善点を考えた。

- ・全職員で足並みをそろえて教育活動に取り組むために、年度始職員会で学校教育目標を共通理解し、方針を統一する。
- ・学校運営に教職員の意見を反映し、こまめな情報交換をするために、終礼や職員朝会、職員会で発言し合う雰囲気を作る。
- ・道徳教育の指導方法を工夫・改善するために、指導要領にあるように問題解決的な学習、体験的な学習を取り入れる。また、道徳的心情を高め、行動化するために、日常的に道徳教育を行う。
- ・学習方法を工夫・改善するために、教師の一方的な教え込みにならず、子どもの主体的な学びとなるよう常に意識し、実践する。また、振り返りを重視する等、評価の工夫をする。
- ・「徳島県GIGAスクール構想」に向けた取り組みとして、コロナ禍の現状でも柔軟に対応できる授業体制の構築や授業におけるICTの活用についての研修を推進する。
- ・環境・国際理解・食育等の教育活動に積極的に取り組むために、講師を呼んでの研修の充実を図る。

#### 5. 次年度に向けて

##### (1) 学習指導

- ・学力向上のために、学習規律の徹底から細かいルールづくり等、学習環境を整えることが大切である。また、授業研究会で授業の進め方等を共通理解するとともに、授業の導入・展開・結びのポイントを整理し、全教職員が一様に実践する。
- ・児童生徒の主体性や思考力を育むために、授業での話し合いの場面設定を工夫する。

##### (2) 児童生徒指導、児童生徒理解

- ・児童生徒の様子について、全教職員で情報を共有したり、相談できる時間を確保する。そのために、毎月の職員会や終礼の中に情報共有の時間を明確に位置

づける。

- ・あいさつや元気な大きな声を出すことを、生徒指導の重点目標にして取り組む。そのために、あいさつの必要性を説いたり、あらゆる場面で継続的な指導を行う。
- ・教師主導ではなく、児童生徒の自己有用感を高められる指導を行うために、ポジティブな行動支援を充実させ、一人一人の良いところを全教職員が共有する。

### **(3)研修の充実**

- ・校務支援システムやタブレットの活用、プログラミング学習の充実に向けた研修を推進していく。

### **(4)教職員の協働**

- ・小中の連携、全教職員の共通理解ができるように、職朝、終礼、研修を活用する。また、行事が追加や変更された場合などは、確実に全教職員が把握できるように徹底する。

### **(5)地域・保護者との連携・協働**

- ・コミュニティスクールとして、学校、地域、保護者が連携・協働できるように、地域と共に行う教育活動に重点を置いた学校運営を行う。また、保護者や地域住民とのコミュニケーションを図るために、教職員から積極的に関わっていく。

### **(6)業務改善等、働き方改革の推進**

- ・各自の業務内容、時間等を可視化し、業務の効率化を図るとともに教職員の業務の負担の平準化へとつなげていくため、令和3年度から導入のグループウェアを活用した客観的なスケジュール管理を行っていく。